



Sun StorEdge™ 6920 システム ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 817-5392-11
2004 年 7 月, Revision 01

コメントの宛先: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、AnswerBook2、docs.sun.com、および Sun StorEdge は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植の可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun StorEdge 6920 System Release Notes
Part No: 817-5229-10
Revision 01



目次

インストールと設定に関する注記	1
ファイバチャネルスイッチゾーニングの推奨	1
Data Services Platform のファンの交換	2
USB のディスク取り付けに関する図について	2
『Sun StorEdge 6920 システムご使用の手引き』で説明されているサービス パネルのラベルの誤り	2
更新用 CD を使用したパッチのインストール	2
ホストソフトウェアと必要なパッチ	4
VERITAS Volume Manager ASL のダウンロード	6
サポートされるアレイおよびドライブのファームウェアレベル	7
サポートされるソフトウェアとハードウェア	8
サポートされる Web ブラウザ	8
サポートされる追加のホストソフトウェア	9
サポートされるファイバチャネルスイッチおよび HBA	10
サポートされる言語	10
システム利用上の制限	11
ネットワーク接続の制限	11
ファイバチャネルポートの制限	12
リリースのマニュアル	12
既知の注意事項と問題点	13

設定管理ソフトウェア	14
コマンド行インターフェース	18
Storage Automated Diagnostic Environment	19
国際化	23
その他の既知の注意事項と問題点	24
既知のマニュアルの注意事項	27
サービスに関する問い合わせ先	32

Sun StorEdge 6920 システム ご使用にあたって

この文書には、製品マニュアルの公開時には入手できなかった Sun StorEdge 6920 システムに関する重要な情報があります。Sun StorEdge 6920 システムのインストールおよび動作に影響を与える可能性がある問題や要件を確認してください。

このリリースノートは、次の節で構成されます。

- 1 ページの「インストールと設定に関する注記」
- 8 ページの「サポートされるソフトウェアとハードウェア」
- 11 ページの「システム利用上の制限」
- 12 ページの「リリースのマニュアル」
- 13 ページの「既知の注意事項と問題点」
- 32 ページの「サービスに関する問い合わせ先」

インストールと設定に関する注記

この項では、Sun StorEdge 6920 システムのインストールと設定に関連する重要な情報を示します。Sun StorEdge 6920 システムをインストールおよび設定する前に、この情報を理解する必要があります。

ファイバチャネルスイッチゾーニングの推奨

Sun StorEdge 6920 システムが他のストレージと同じゾーンに含まれるように SAN(storage area network) を設定した場合、すべてのデバイスの LUN が Sun StorEdge 6920 システムから参照できます。これを防ぐには、LUN マスキングを使

用するように、他のストレージを SAN で設定してください。または、別のゾーンに Sun StorEdge 6920 システムポートを設定して、他のアレイデバイスをシステムから参照できないようにすることができます。

Data Services Platform のファンの交換

DSP (Data Services Platform) のファンは、FRU (現場交換可能ユニット) です。ファンを取り外す場合は、次の点に注意してください。



注意 – ファンには、保護されていないファンブレードがあり、取り外し時にまだ回転している可能性があります。ファンをキャビネットから取り外す前に、ファンブレードの動きが完全に止まっていることを確認してください。

USB のディスク取り付けに関する図について

『Sun StorEdge 6920 システムご使用の手引き』の 31 ページにある USB ポートの図 (図 2-17) は正しくありません。図では、誤って下部の USB ポートが示されていますが、正しくは上部のポートを使用してください。

『Sun StorEdge 6920 システムご使用の手引き』で説明されているサービスパネルのラベルの誤り

『Sun StorEdge 6920 システムご使用の手引き』の 38 ページで説明されている「サービスコンソール」というポートは誤りです。このポートは存在しません。シリアル接続用の 2 つのポートは、「Service Serial」と「Serial Console」です。

更新用 CD を使用したパッチのインストール

Sun StorEdge 6920 システムのストレージサービスプロセッサ v1.2 の更新用 CD には、Sun StorEdge 6920 システムのストレージサービスプロセッサソフトウェアを更新するためのパッチが含まれています。これはストレージサービスプロセッサイメージを再インストールしません。

注 – 更新をはじめる前に、システムが正常な状態にあることを確認してください。
「Configuration Service」で、右上には「現在のアラーム」ステータスが表示されます。必要に応じて、「現在のアラーム」をクリックし、対処可能なアラームがあるかどうかを確認します。更新のためにディスクファームウェアパッチが推奨されている場合は、更新するアレイに接続されているすべてのボリュームへの入出力を停止してください。

ストレージサービスプロセッサでのソフトウェアの更新には、次の 2 つのステップがあります。

- ソフトウェア更新のダウンロードの準備
- ソフトウェア更新の適用

ソフトウェア更新のダウンロードの準備

1. ストレージサービスプロセッサの CD-ROM ドライブに CD を挿入します。
2. サポートされているブラウザを開きます。
3. 次の書式でシステムの IP アドレスを入力します。https://<IP_address>:6789
4. ユーザー名とパスワードを入力します。
デフォルトのユーザー名 : **storage**
デフォルトのパスワード : **!storage**
5. 「ログイン」ボタンをクリックします。
「Sun Web Console」ページが表示されます。
6. 「Storage Automated Diagnostic Environment」を選択します。
7. 「サービス」> 「Sun ソリューションシリーズ」> 「リビジョン設定」をクリックします。
「リビジョン設定」ページが表示されます。
8. 「Revision Maintenance Source」フィールドを「CD」に変更します。
9. 「オプションを更新」をクリックして、設定を保存します。
「ソフトウェア更新の適用」に進みます。

ソフトウェア更新の適用

1. 「サービス」> 「Sun ソリューションシリーズ」> 「資産管理」をクリックします。
「資産の保守」ページが表示されます。

2. 「新しい資産を生成」をクリックし、システムの資産リストを更新します。
3. 完了したら、「新しい資産の保存」をクリックして、リストを更新します。
4. 「サービス」>「Sun ソリューションシリーズ」>「リビジョン管理」をクリックします。
「リビジョン管理」ページが表示されます。
5. 「リビジョンを更新」をクリックします。
6. 「新しいパッチレポートを作成」をクリックします。
利用可能なパッチのレポート作成には、数分かかることがあります。「パッチアップグレードレポートステータスを作成」で、ステータスを監視できます。パッチレポートが完了すると、システムで利用できるソフトウェア更新が表示されます。
7. アクティブになったときに、「パッチを選択」をクリックします。
ストレージレイおよびその他のシステムコンポーネントで利用できるパッチが表示されます。
8. 次のいずれかの操作を行います。
 - 特定のデバイスのソフトウェアを更新するには、更新するデバイスを選択して、「選択したパッチを適用」をクリックします。
 - すべてのデバイスのソフトウェアを更新する場合は、「すべてのデバイスを適用」をクリックします。
更新が完了したら、「パッチインストールレポート」が表示されます。
9. インストールレポートを保存するには、「履歴に移動」をクリックします。
10. 利用できるパッチがなくなるまで、ステップ 1～9 を繰り返します。
リビジョン管理更新は、最初のパッチレポートですべてのデバイスパッチを表示しません。選択できるソフトウェア更新がなくなるまで、ステップ 1～9 を繰り返す必要があります。
11. ソフトウェア更新が完了したら、「サービス」>「ユーティリティ」>「CD の取り出し」をクリックします。
Storage Automated Diagnostic Environment ソフトウェアの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ホストソフトウェアと必要なパッチ

マルチパスソフトウェアは、Sun StorEdge 6920 システムと通信する各データホストにインストールする必要があります。Solaris ホストでは、このソフトウェアは SAN Foundation Software (SFS) の一部です。Solaris 以外のホストでは、このソフトウェアは Sun StorEdge Traffic Manager Software (STMS) です。

Sun StorEdge 6920 Host Installation Software CD がシステムに付属していない場合は、ご購入先に問い合わせてください。

表 1 に、マルチパスソフトウェアの入手先と、必要なオペレーティングシステムパッチを示します。

注 – データホストにマルチパスソフトウェアが必要な場合、そのソフトウェアをインストールしてから、パッチをインストールしてください。

表 1 データホストソフトウェアと必要なパッチ

ホストのプラットフォーム	ソフトウェア (最低バージョン)	最低 OS パッチレベル	OS パッチレベルに関する 注意
Solaris 9 OS	SAN Foundation Software 4.4 ¹	Solaris 9 113277-12	
または		Solaris 9 113072-07	1 TB を超えるボリュームがある場合に必要です (Solaris 9 のみで利用できます)。
Solaris 8 4/01 OS	SAN Foundation Software 4.4 ¹	Solaris 8 108974-32	
Microsoft Windows 2000 Server および Advanced Server	Sun StorEdge Traffic Manager software 4.4 for Windows 2000	Microsoft Windows 2000 Service Pack, SP 4	Microsoft から入手可能
Microsoft Windows 2003 Web、Standard、および Enterprise Edition	Sun StorEdge Traffic Manager software 4.4 for Windows 2003	-	
IBM AIX 5.1 (32 および 64 ビット)	Sun StorEdge Traffic Manager software 4.4 for AIX 5.1	Maintenance Level 5	IBM から入手可能
HP-UX 11.00 および 11.i	Sun StorEdge Traffic Manager software 4.4 for HP-UX	2003 年 9 月のパッチ セット	Hewlett-Packard から入手 可能
Red Hat Enterprise Linux AS 2.1	Sun StorEdge Traffic Manager software 4.4 for Linux 2.1	Kernel 2.4.9-e.3	Red Hat Linux から入手可 能
Red Hat Linux ES/WS 2.1	Sun StorEdge Traffic Manager software 4.4 for Linux 2.1	Version 2.4.9-e.12	Red Hat Linux から入手可 能

1. ベースライン SAN Foundation Software が確実にバージョン 4.4 となるように、次の Web サイトから最新のパッチをダウンロードし、インストールしてください。
<http://sunsolve.sun.com/>

VERITAS Volume Manager ASL のダウンロード

VERITAS Volume Manager 3.5 および 4.0 は、Array Support Library (ASL) ソフトウェアパッケージの形式で Sun StorEdge 6920 システムをサポートします。ASL ソフトウェアが Sun StorEdge 6920 システムでアレイを認識できるように、ASL ソフトウェアパッケージは、Volume Manager 3.5 または 4.0 ソフトウェアと同じホストシステムにインストールする必要があります。

次の手順を使用して、ASL ソフトウェアと付属の ReadMe ファイルを Sun Download Center からダウンロードします。

1. Sun StorEdge 6920 システムに接続している Sun サーバーにスーパーユーザーとしてログインします。
2. 次の場所にある「All Products」リストに移動します。
<http://www.sun.com/software/download/allproducts.html>
3. 「V」の見出しの下で、「VERITAS Volume Manager Array Support Library (ASL)」をクリックします。
4. プラットフォームに適したリンクをクリックします。
5. 「Download」をクリックし、Sun Download Center に移動します。
このページは、お使いのプラットフォームおよび言語の VERITAS Volume Manager Array Support Library (ASL) を選択された製品として識別します。
6. まだ登録していない場合は、次の方法で登録してください。
 - a. 左の列の下部にある「Register Now」リンクをクリックします。
 - b. 登録ページで、必要なフィールドを入力し、「Register」をクリックします。
7. 次のようにログインします。
 - a. 左の列でユーザー名とパスワードを入力し、「Login」をクリックします。
 - b. 「Terms of Use」ページでライセンス契約を読み、「Accept」をクリックして同意し、「Continue」をクリックします。
8. Sun StorEdge 6920 システムの ASL パッケージと ReadMe ファイルを含む圧縮 TAR ファイルをダウンロードします。
9. `untar` コマンドを使用して、TAR ファイルを解凍します。
10. VERITAS Volume Manager ASL のインストール方法については、ReadMe ファイルを参照してください。

サポートされるアレイおよびドライブのファームウェアレベル

サポートされる最低のアレイファームウェアリビジョンレベルは、3.1.4 です。

既存の Sun StorEdge 6120 アレイまたは拡張トレイを Sun StorEdge 6920 システムに追加する場合は、次の操作を行う必要があります。

- パッチ 115179-11 を適用して、アレイコントローラカードをファームウェアレベル 3.1.4 以上に更新します。
- アレイのすべてのディスクに最新リリースのドライブファームウェアパッチを適用します (表 2 を参照してください)。

Sun StorEdge 6320 システムから Sun StorEdge 6920 システムに Sun StorEdge 6020 アレイを追加する場合は、Sun StorEdge 6320 ベースラインバージョン 1.2.3 にアレイを更新する必要があります (アレイファームウェアパッチを適用する必要はありません。Sun StorEdge 6320 ベースライン 1.2.3 に更新するときにパッチがインストールされます)。

表 2 ドライブのファームウェアリビジョンレベルおよびパッチ

ベンダー	モデル	最低パッチレベル
Seagate	ST336753FC	116748-02
	ST373453FC	113673-01
	ST373307FC	114708-03
	ST3146807FC	114709-03
Fujitsu	MAP3735FC	116514-01
	MAP3147FC	116815-01
	MAS3367FC	116816-01
	MAS3735FC	116817-01
Hitachi	DK32EJ146F	116465-01
	DK32EJ72F	116464-01
	DK32EJ36F	116463-01

サポートされるソフトウェアとハードウェア

次の項で説明するソフトウェアとハードウェアのコンポーネントは、Sun StorEdge 6920 システムで動作することがテストおよび確認されました。

- 8 ページの「サポートされる Web ブラウザ」
- 9 ページの「サポートされる追加のホストソフトウェア」
- 10 ページの「サポートされるファイバチャネルスイッチおよび HBA」
- 10 ページの「サポートされる言語」

サポートされる Web ブラウザ

Sun StorEdge 6920 システムは、表 3 に示す Web ブラウザをサポートしています。

表 3 サポートされる Web ブラウザ

ブラウザ	最低バージョン
Netscape Navigator	7.0
Microsoft Internet Explorer	5.0
Mozilla	1.2.1

注 – Sun StorEdge 6920 管理ソフトウェアでは、Web ブラウザでポップアップウィンドウを有効にする必要があります。

サポートされる追加のホストソフトウェア

表 4 に示すソフトウェアは、Sun StorEdge 6920 システムへのデータパスまたはネットワーク接続を有するホストで使用するために互換性を有します。

表 4 サポートされる Sun ホストソフトウェア

ソフトウェア	最低バージョン
Sun StorEdge Enterprise Storage Manager	2.1 およびパッチ 117367-01
Sun StorEdge Availability Suite	3.2
Sun StorEdge Enterprise Backup Software	7.1
Solstice DiskSuite	4.2.1
Solaris Volume Manager ソフトウェア (Solaris 9 オペレーティングシステムに付属)	-
HP-UX、IBM AIX、Microsoft Windows 2000、および Microsoft Windows 2003 用の Sun StorEdge Traffic Manager	4.4
Sun StorEdge Performance Suite with Sun StorEdge QFS	4.0
Sun StorEdge Utilization Suite with Sun StorEdge SAM-FS	4.0
Sun Cluster ソフトウェア	3.0、update 3
Storage Automated Diagnostic Environment、Device Edition	2.3

表 5 に示す他社製ソフトウェアは、Sun StorEdge 6920 システムへのデータパスまたはネットワーク接続を有するホストで使用するために互換性を有します。

表 5 サポートされる他社製ソフトウェア

ソフトウェア	バージョン
VERITAS NetBackup Server	5.0
VERITAS NetBackup Enterprise Server	5.0
VERITAS Volume Manager with Dynamic Multipathing (DMP) for Solaris	3.5 および 4.0
VERITAS File System (VxFS) for Solaris	3.5 および 4.0
VERITAS Volume Replicator for Solaris	3.5
Legato NetWorker®	7.1

サポートされるファイバチャネルスイッチおよび HBA

Sun StorEdge 6920 システムは、1 つの例外を除き、SAN Foundation Software 4.4 (以上) でサポートされているすべてのファイバチャネル (FC) スイッチとホストバスアダプタ (HBA) をサポートします。Sun StorEdge 6920 システムは、Sun ブランドの JNI HBA (P/N SG-(X)PCI2FC-JF2 および SG-(X)PCI21C-JF2) はサポートしません。

サポートされる FC スイッチと HBA のリストについては、『Sun StorEdge SAN Foundation Software Release Notes』を参照してください。

サポートされる言語

Sun StorEdge 6920 管理ソフトウェアと Storage Automated Diagnostic Environment アプリケーションは、表 6 に示す言語/ロケールをサポートしています。

表 6 サポートされる言語/ロケール

言語	ロケール
英語	en
フランス語	fr
日本語	ja
韓国語	ko
簡体字中国語	zh
繁体字中国語	zh_TW

注 – マニュアルは、英語と日本語のみで提供されます。

システム利用上の制限

表 7 に、Sun StorEdge 6920 システムの要素の最大値を示します。

表 7 Sun StorEdge 6920 システムの制限

システム属性	最大
システムあたりのボリューム	1024 ボリューム
トレイあたりの仮想ディスク	2 仮想ディスク
仮想ディスクあたりのボリューム	32 ストライプ化ボリューム
ボリュームあたりのスナップショット	8 スナップショット
システムと通信できるイニシエータ ¹	256 イニシエータ
1 つのシステムポートと通信できるホスト HBA ポート	128 のホスト HBA ポート
1 つのホスト HBA ポートの固有の名称 (WorldWide Name、WWN) にマッピングすることができるボリューム	256 ボリューム
ストレージドメイン	14 ストレージドメイン (1 つのシステム定義ドメインと、13 のユーザー定義ドメイン)
ストレージプール	64 ストレージプール
ストレージプロファイル	14 システム定義ストレージプロファイル、ユーザー定義プロファイルは無制限

1. イニシエータという用語は、Sun StorEdge 6920 システムによって認識される「イニシエータインスタンス」を意味します。ホスト側の HBA ポートが「N」個のポートを認識する場合、システムは「N」個のイニシエータを認識します。256 のイニシエータの制限のために、デュアルバスホストは最大 128 になります。この場合、各ホスト HBA ポートは、システムの 1 つのポートを認識できます。

ネットワーク接続の制限

サイト (お客様) の LAN に接続される Sun StorEdge 6920 システムファイアーウォールは、半二重 10-Mbps ネットワーク接続をサポートしています。ネットワークスイッチまたはハブでポート設定を「自動ネゴシエート」に設定してください。何らかの理由のために自動ネゴシエート設定を使用できない場合は、ネットワークスイッチまたはハブを半二重 10-Mbps に設定してください。

ファイバチャネルポートの制限

Sun StorEdge 6920 システムは、2 枚または 4 枚のストレージリソースカード (SRC) セットで構成されます。各 SRC セットは、1 枚の SRC カードと 1 枚のストレージ入出力カードから構成されます。各 SRC セットには、4 つのプロセッサと 8 つのファイバチャネル (FC) ポートがあります。1 つのプロセッサは近接 FC ポートに対応します (たとえば、ポート 1 および 2 は 1 つのプロセッサを共有し、ポート 3 および 4 は 1 つのプロセッサを共有します)。FC ポートは、SAN/ホスト接続とストレージアレイ接続間で共有されます。これらのアレイは DSP に接続され、Sun StorEdge 6920 システムに物理的に設置されます。

『Sun StorEdge 6920 システムご使用の手引き』とオンラインヘルプで説明するように、SAN/ホストとストレージアレイ接続間で FC ポートを均一に分散させる必要があります。たとえば、2 つの SRC セットと合計 16 の FC ポートがあるシステムでは、SAN/ホスト接続に 8 ポート、ストレージ接続に 8 ポートを割り当てます。4 つの SRC セットと合計 32 の FC ポートがあるシステムでは、SAN/ホスト接続に 16 ポート、ストレージ接続に 16 ポートを割り当てます。

SAN/ホスト接続とストレージアレイ接続間で FC ポートの合計数を均一に分散させることができない場合は、次のポート割り当て規則に従う必要があります。

- プロセッサを共有する近接 FC ポートは、SAN/ホスト接続またはストレージアレイ接続専用を使用する必要があります。たとえば、ポート 1 を SAN/ホスト接続に使用する場合、ポート 2 は SAN/ホスト接続のみに使用できます。
- プロセッサを共有している FC ポートの一方のみがストレージアレイ接続に使用され、他方のポートが使用されていない場合、未使用のポートは今後のストレージ接続のためにのみ使用できます。同様に、プロセッサを共有している FC ポートの一方のみが SAN/ホスト接続に使用され、他方のポートが使用されていない場合、未使用のポートは今後の SAN/ホスト接続のためにのみ使用できます。

以上の規則は、次のシステム構成に適用されます。

- 16 の FC ポートおよび 4 を超えるアレイ
- 16 の FC ポートおよび 8 を超える SAN/ホスト接続
- 32 の FC ポートおよび 8 を超えるアレイ
- 32 の FC ポートおよび 16 を超える SAN/ホスト接続

リリースのマニュアル

次に、Sun StorEdge 6920 システムに関連するマニュアルのリストを示します。マニュアル番号の末尾に *nn* が付いている場合は、最新版を使用してください。

次の Web サイトでマニュアルを検索できます。

- <http://www.sun.com/documentation>
- <http://docs.sun.com>

主題	タイトル	Part No.
運送用コンテナに添付される開梱指示	『Unpacking Guide』	816-5230- <i>nn</i>
システムライセンス情報	『Sun StorEdge 6920 System License Cards』	817-5829- <i>nn</i> 817-5225- <i>nn</i>
システム計画情報	『Sun StorEdge 6920 システムサイト計画の手引き』	817-5377- <i>nn</i>
システムの規制および安全に関する情報	『Sun StorEdge 6920 System Regulatory and Safety Compliance Manual』	817-5230- <i>nn</i>
システムのインストールおよび初期設定に関する情報	『Sun StorEdge 6920 システムご使用の手引き』	817-5387- <i>nn</i>
CDからのソフトウェアのインストール	『Sun StorEdge 6920 システムホストインストールソフトウェアガイド』	817-5920- <i>nn</i>

システムの概要情報と、システムの設定、保守、および基本的な障害の追跡に関する情報は、ソフトウェアに含まれるオンラインヘルプで説明されています。また、**sscs(1M)**のマニュアルページは、コマンド行インタフェース (**CLI**) を使用してストレージを管理するために使用するコマンドについて説明しています。

既知の注意事項と問題点

次の各項では、今回の製品リリースに関する既知の注意事項と問題点 (バグ) を説明します。

- 14 ページの「設定管理ソフトウェア」
- 18 ページの「コマンド行インタフェース」
- 19 ページの「Storage Automated Diagnostic Environment」
- 23 ページの「国際化」
- 24 ページの「その他の既知の注意事項と問題点」
- 26 ページの「不明確なメッセージ」
- 27 ページの「既知のマニュアルの注意事項」

バグに対して利用できる推奨回避策がある場合は、バグの説明の次に示されます。

設定管理ソフトウェア

この項では、設定管理ソフトウェア (GUI) に関連する既知の注意事項と問題点 (バグ) を説明します。

多数のボリュームが GUI のパフォーマンスに影響を与えることがある

バグ 4977706 - ボリュームの数が 1024 に近づくにつれて、GUI のパフォーマンスは低下することがあります。

「ストレージプールの詳細」ページ：「削除」ボタンが使用不可になっていない

バグ 4985377 - 使用中のストレージプールが「ストレージプールの詳細」ページに表示されている場合に、「削除」ボタンがアクティブになるのは不適切です。使用中のストレージプールを削除しようとした場合は、次のエラーが表示されます。

None of the storage pools were deleted. The following errors were encountered:

poolname - Item is in use

「ストレージプロファイルの概要」ページ：RAID-5 設定時の動作

バグ 5010540 - 「ストレージ」 > 「プロファイル」 > 「ストレージプロファイルの概要」ページから RAID-5 レベルのストレージプロファイルを変更する場合に、無効なドライブ設定を保存できます。たとえば、RAID-5 ストレージプロファイルを変更し、2 つのドライブを選択した場合、その選択が無効であるにもかかわらず、設定が保存されます。RAID-5 ストレージプロファイルは、最低 3 ドライブを必要とします。

ウィザード：「次へ」ボタンと「完了」ボタンで進行状況が表示されない

バグ 4936719 - 一部のウィザードで「次へ」ボタンまたは「完了」ボタンをクリックしたときに、ブラウザによっては処理の進行状況が表示されないことがあります。

「次へ」ボタンまたは「完了」ボタンを再びクリックしても問題は生じません。次のプロンプトの表示によって、処理の完了が示されます。

「管理」、「一般設定」ページ：IP アドレスを変更すると、ブラウザセッションが終了する

バグ 4987947 - 「管理」ページで Sun StorEdge 6920 システムの IP アドレスを変更すると、ブラウザセッションが通知なしで終了します。新しい IP アドレスは、ストレージサービスプロセッサに保存されます。この問題は、ドメインネームサーバー (DNS) の IP アドレスまたはゲートウェイアドレスなど、その他のネットワーク設定を変更した場合には発生しません。

回避策 - 新しい IP アドレスを使用して、システムに再びログインします。

「ボリュームの概要」ページ：ストライプ化の仮想化方式が不明確なエラーメッセージで失敗することがある

バグ 4941750 - ストレージプールの残りの容量に、要求されたボリュームサイズの数倍に達する大きなストライプ化パーティションが含まれていない場合、ストライプ化の仮想化方式を使用したボリュームの作成は失敗することがあります。たとえば、ストレージプールに 3 つの仮想ディスクがあり、2 つのディスクの空き容量が 36 ギガバイト、1 つのディスクの空き容量が 18 ギガバイトの場合、90 ギガバイトのボリュームを作成する要求は、同じサイズのストライプ化要素を割り当てることができないために失敗します。この場合、要求できる最大ボリュームサイズは、72 ギガバイトです。

回避策 - ストライプ化を使用してボリュームを作成するときに次のエラーが表示される場合は、要求するボリュームサイズを小さくするか、最大容量オプションを使用します。

The volume size specified is too large for the devices specified

同一のストレージプール名がストレージドメインを超えて表示されない

バグ 4993083 - 複数のストレージドメインで、同じストレージプール名を使用する場合は、GUI で名前が正確に表示されません。

回避策 - ストレージプールの作成時に、システム全体で一意的な名前を割り当てます。

設定操作と診断操作を同時に実行できない

バグ 4953295 - GUI または CLI から診断操作と設定操作を同時に実行することはできません。たとえば、Sun StorEdge 6920 Configuration Service アプリケーションを使用して設定操作を実行しているときに、Storage Automated Diagnostic Environment インタフェースを使用して、ハードウェア現場交換可能ユニット (FRU) を交換することはできません。

回避策 - Storage Automated Diagnostic Environment アプリケーションを使用する前に、Sun StorEdge 6920 Configuration Service アプリケーションまたは CLI から呼び出したすべての設定操作を終了させます。Sun StorEdge 6920 Configuration Service アプリケーションまたは CLI を使用する前に、Storage Automated Diagnostic Environment アプリケーションで呼び出したすべての更新操作または保守操作を終了させます。

ネットワークドメイン名を GUI で変更できない

バグ 5046043 - Sun StorEdge 6920 Configuration Service アプリケーションは、ネットワークドメイン名の変更を許可していません。

回避策 - コマンド行インタフェース (CLI) の `sscs` コマンドを使用して、ネットワークドメイン名を変更します。たとえば、次のコマンドは、ネットワークドメイン名を `NEWNAME` に変更します。

```
sscs modify -D NEWNAME net
```

ネットワークパラメータを変更するたびに、システムに再びログインする必要があります。

「現在のアラーム」ウィンドウにスクロールバーが表示されない

バグ 5051403 - Configuration Service ユーザーインタフェースページの「現在のアラーム」リンクは、新しいウィンドウに現在のアラームリストを開きます。ただし、このウィンドウでは、表示されていない項目をスクロールして表示することができません。

回避策 - Storage Automated Diagnostic Environment アプリケーションから「現在のアラーム」リストにアクセスしてください。これによって、現在のアラームのリストを適切にスクロールすることができます。

「ストレージをプールに追加」ウィザード：無効なトレイが表示される

バグ 5049258 - 「ストレージをプールに追加」ウィザードは、ストレージをプールに追加するときに、誤って無効なトレイを選択肢に表示することがあります。

回避策 - ストレージをプールに追加した後で、(同じストレージプールを含む) プールにストレージをさらに追加する前に最低 1 分待ってください。

「ストレージをプールに追加」ウィザードで各トレイに 2 つのエントリが含まれるトレイのリストが表示される場合は、操作を取り消し、もう 1 分待ってください。これによって、無効なトレイが表示されなくなります。

複数のオブジェクトを選択すると、無効な操作を選択できるボタンが有効になる

バグ 4931792 - 特定のページで複数のオブジェクトを選択した場合、ソフトウェアは無効な操作を選択できるボタンを誤って有効にします。ただし、誤って有効にされたボタンを選択した場合 (たとえば、マッピングを解除されたボリュームのスナップショットを取ろうとした場合)、その操作が無効であることを示すエラーメッセージが表示されます。

「新規ストレージプロファイル」ウィザード：連結ボリュームでチャンクサイズを利用できる

バグ 4939795 - 「新規ストレージプロファイル」ウィザードで、連結ボリューム用にチャンクサイズフィールドを利用できます。

回避策 - ストライプ化の仮想化方式を使用する場合にのみチャンクサイズを指定できます。

パスワードの変更が適用されないことがある

バグ 5061119 - 「新規パスワード」フィールドまたは「確認」フィールドにパスワードを入力して、「パスワードの設定」をクリックした場合、変更が行われていなくても次のようなメッセージが表示されます。

The password has been successfully changed.

この場合、「古い」ユーザー名とパスワードを入力しても、ログインが承認されません。

回避策 - パスワードの更新が受け入れられなかった場合は、パスワードを再び変更してください。

仮想ディスクを新規ストレージプールに再割り当てするとき、仮想ディスクが再初期化されない

バグ 5069434 - システムソフトウェアは、ストレージプール用に作成された仮想ディスクを、異なるストレージプロファイルを持つストレージプールに追加することを抑制しません。仮想ディスクの元の属性は変更することができないため、結果としてストレージプールの属性に適合しない仮想ディスクがストレージプール内に存在することになります。

回避策 - ストレージプールから、異なるストレージプロファイルを持つ別のプールに仮想ディスクを再割り当てすることはできませんが、仮想ディスクを削除して新しく作成することはできます。まず、ボリュームを削除し、その後に仮想ディスクを削除します。必要なストレージプロファイルを持つストレージプールに、新しい仮想ディスクを作成してください。

コマンド行インタフェース

この項では、コマンド行インタフェース (CLI) における既知の注意事項と問題点 (バグ) を説明します。

SSCS コマンド : RAS_Patchlist オプションを使用すると、正しいエラーメッセージが返される

バグ 5060085 - SUNWstads ソフトウェアパッチのインストール後に、一部の SSCS list コマンドは、「No -I allowed while running setuid.」というメッセージを返しません。

回避策 - SUNWstads ソフトウェアパッチのインストール後に、スクリプト `/opt/SUNWstade/sysbin/fix_exe` を実行してください。

Update_rss_console コマンド : モデル番号に書式の制限がある

バグ 4943441 - `update_rss_console` でモデル番号を入力する場合は、モデル番号の先頭にスペースを含まない大文字の「SE」を付け、その後ろに特定のモデル番号を指定する必要があります。たとえば、「SE3960」は有効なモデル番号書式です。

sscs コマンド : Import/Export サブコマンドがサポートされない

バグ 4987209 - `sscs import` サブコマンドと `export` サブコマンドは、このリリースでは利用できません。マニュアルには、有効なサブコマンドとして `import` と `export` が誤って記載されています。

sscs コマンド : ボリューム作成コマンドに書式の制限がある

バグ 5021780 - `sscs` を使用してボリュームを作成し、(20 GB のように) ボリューム容量の後ろにスペースを挿入した場合、作成されるボリュームはストレージプールの残りの未割当容量すべてを使用します。

回避策 - ボリューム容量の指定時にスペースを使用しないでください。たとえば、次の例に示すように、ボリューム容量を入力します。

```
sscs create -p Vol_R5_13dr -s 20GB volume n1
```

SSCS コマンド : ブロックサイズを指定してボリューム作成コマンドを実行すると、最大サイズでボリュームが作成される

バグ 5070516 - sscs を使用してブロックサイズを指定してボリュームを作成する場合に、ボリュームは、指定したサイズではなく最大サイズで作成されます。

回避策 - M バイト、または G バイトでサイズを指定してください。または、ブロックサイズの指定には、**Configuration Service 管理ソフトウェア (GUI)** を使用してください。

SSCS コマンド : シェルスクリプトからログインコマンドを実行できない

バグ 5011797 - sscs login コマンドはシェルスクリプトから実行できません。

回避策 - 入出力を処理するための疑似 tty ペアを設定する (Perl などの) プログラムを通じてシェルスクリプトを呼び出し、疑似 tty に対して、プログラムにプロセス入力としてパスワードを書き込ませます。

Boot -r コマンド : mp_support パラメータが誤って変更される

バグ 4987017 - boot -r コマンドを使用して再起動する場合、mp_support パラメータはアレイの NVRAM 領域で誤って変更されます。

回避策 - 再起動後に、次のコマンドを使用して、フェイルオーバーモードを mp_support=mpxio に設定できます。

```
sscs modify -f explicit array array-name
```

Storage Automated Diagnostic Environment

この項では、Storage Automated Diagnostic Environment アプリケーションに関連する既知の注意事項と問題点 (バグ) を説明します。

パッチの更新 : パッチサーバーへの接続が失われた場合に、通知が送られない

バグ 5014270、5010199 - パッチ更新の実行時に、Sun StorEdge 6920 システムがパッチサーバーに接続できなかったことを示す通知は送られません。

回避策 - パッチ更新を実行する前に、「サービス」>「Sun ソリューションシリーズ」>「リビジョン設定」ページにある「Revision Maintenance Source 接続のテスト」ボタンをクリックして、接続をテストしてください。

パッチ更新：パッチのインストール処理中に、インストールに失敗することがある

バグ 5060597 - パッチをインストールする場合、パッチのインストール処理中に障害が生じることがあります。

回避策 - パッチのインストール処理を繰り返してください。パッチのバックアウトはしないでください。再び障害が発生した場合は、Sun のカスタマーサービスに問い合わせてください。

ファームウェアの更新：更新後にアレイ LED が誤って表示されることがある

バグ 5045368 - アレイファームウェアの更新を実行した後で、アレイループカードと格納装置の LED がオレンジ色になることがあります。

回避策 - syslog ファイルでエラーを確認し、fru stat コマンドを実行します。エラーがレポートされていない場合は、オレンジ色の LED を無視してください。この場合、オレンジ色の LED は割り込みが急激に増加したことを示しています。再起動の後に、LED は緑色に点灯します。

ファームウェアの更新：ファームウェアの更新が失敗した場合に、ファームウェアレベルが元に戻らない

バグ 5015297 - ファームウェアの更新中に障害が生じた場合、ファームウェアレベルは、更新前のバージョンに戻りません。

回避策 - 「サービス」>「Sun ソリューションシリーズ」>「資産管理」に進み、新しい資産を生成し、レポートされた問題を修正し、資産を保存してから、リビジョン管理を再実行します。問題が解決しない場合は、ご購入先に問い合わせてください。手順の詳細については、「ソフトウェア更新の適用」を参照してください。

パッチ更新：ファームウェアリビジョンが更新されない

バグ 5054792 - パッチ更新の完了後に、ファームウェアリビジョンは自動的に更新されません。

回避策 - 「サービス」 > 「Sun ソリューションシリーズ」 > 「資産管理」に進み、新しい資産を生成し、資産を保存し、リビジョン管理を再実行して、ファームウェアリビジョンを更新します。手順の詳細については、「ソフトウェア更新の適用」を参照してください。

パッチレポートの作成を停止すると、ストレージサービスプロセッサへの接続が無効になる

バグ 5050990 - 「新しいパッチレポートを作成」を選択した後で「停止」をクリックすると、Sun StorEdge 6920 ストレージサービスプロセッサへの接続が無効になります。

回避策 - パッチレポート作成処理を進行中に停止しないでください。

パッチ更新：以前のパッチインストールレポートが表示されている

バグ 5056678 - リビジョン管理更新操作を開始するときに、以前のパッチインストールレポートが表示されています。「レポートをクリア」をクリックすると、以前のレポートはクリアされます。

ログのタイムスタンプが正しくない

バグ 4985811 - `/var/adm/messages.array` ログのタイムスタンプは、ストレージサービスプロセッサのローカル `syslog` ファイルのタイムスタンプと正確に一致しません。

「ローカル情報通知」ページ：「すべて」または「通知情報」を選択しない

バグ 4995950 - Storage Automated Diagnostic Environment アプリケーションの「管理」 > 「通知」 > 「ローカル電子メール」 > 「ローカル通知情報」ページで、「すべて」または「通知情報」を選択しないでください。いずれかを選択すると、障害を示していないイベントを含め、すべてのイベントに対して通知が送られます。

回避策 - 障害通知を設定する場合は、「警告」、「エラー」、および「ダウン」のみを選択してください。

スタンバイスイッチファブリックカードを交換すると、対処可能なイベントが生じる

バグ 4951253 - スタンバイスイッチファブリックカード (SFC) を交換した場合、再読み込みの完了時にカードが正しくスタンバイモードに戻った場合でも、対処可能なイベントが発生することがあります。

データホストとストレージサービスプロセッサ間で通信エラーが発生する

バグ 5050511 - データホストとストレージサービスプロセッサ間で、通信の消失を示す通信エラーが発生します。対処可能なイベントは「Lost Communication」と表示され、次のイベントは「Communication Regained」と表示されます。

回避策 - SUNWstade サポートパッチ StorADE 116720-07 を <http://sunsolve.sun.com/> からダウンロードします。

サービスアドバイザーの新しいアレイの設定手順が正しくない

バグ 5050631 - 「サービス」>「サービスアドバイザー」>「X オプション」>「ストレージアレイの追加」での「新規アレイの設定」の手順が1つ抜けています。手順 6. c) 「必要なパッチを選択して適用します。」を実行する前に予約を解放しないと、エラーが発生します。

回避策 - 新しいアレイに対してパッチを選択し、適用する前に、キャビネットの予約を解放します。

デバイス概要レポート：不正確な電源シーケンサの表示

バグ 5058311 - Sun StorEdge 6920 システムの完全停止または部分停止の後に、6920 デバイス概要レポートは、「監視-デバイス」タブで、ラック電源シーケンサのステータスがオンであると誤って表示します。

sscs コマンドオプションの ras_patchlist で入力エラーが生じる

バグ 5059394 - sscs コマンドの ras_patchlist オプションを使用して、インストール済みソフトウェアパッチに関するレポートを生成する場合に、間違ったエラーメッセージが返され、結果が示されません。

回避策 - ras_patchlist コマンドオプションを使用しないでください。Storage Automated Diagnostic Environment の GUI を使用して、インストール済みパッチのリストを表示します。パッチリスト機能は、「サービス」タブの「Sun ソリューションシリーズ」の「リビジョン管理」にあります。

Microsoft Internet Explorer にトポロジグラフィックスが表示されない

バグ 5062539 - Microsoft Windows システムで Microsoft Internet Explorer を使用する場合、トポロジグラフィックスは表示されません。

回避策 - Microsoft Windows システムでは Netscape 7.0 ブラウザを使用してください。

Network Terminal Concentrator (NTC) パッチをインストールすると、NTC にアクセスできなくなる

バグ 5061336 - NTC に更新パッチをインストールした後で、NTC にアクセスできなくなることがあります。

回避策 - 電源を入れ直して、NTC を再起動します。NTC を再起動するには、サービスプロセッサのアクセサリトレイ背面の電源ケーブルを 10 秒間取り外し、その電源ケーブルを再び取り付けます。

国際化

この項では、国際化と言語の翻訳に関連する既知の注意事項と問題点 (バグ) を説明します。

ジョブの説明が正しく表示されない

バグ 5028558 - フランス語、日本語、韓国語、簡体字中国語、および繁体字中国語で作成されたジョブでは、ジョブの説明は異なる言語環境では正しく表示できません。これは、仮想ディスクの作成ジョブを除くすべてのジョブに当てはまります。

「トポロジからのテスト」ページのラベルが翻訳されていない

バグ 4853278 - Storage Automated Diagnostic Environment (System Edition) の「トポロジからのテスト」ページの一部のラベルは、翻訳されず、英語で表示されます。

「デバイスパフォーマンス」項目が翻訳されていない

バグ 4991042 - Storage Automated Diagnostic Environment (System Edition) の「デバイスパフォーマンス」ページの一部のラベルは、翻訳されず、英語で表示されません。

Microsoft Internet Explorer ブラウザが繁体字中国語のロケールで文字化けを起こす

バグ 5056025 - 繁体字中国語の表示は、Internet Explorer ブラウザでは文字化けします。これは、Windows 環境の Internet Explorer ブラウザの繁体字中国語バージョンが、EUC-TW エンコードをサポートしていないためです。

回避策 : Windows 環境では、Mozilla (バージョン 1.7) または Netscape (バージョン 7.1) の繁体字中国語バージョンを使用してください。

Storage Automatic Diagnostic Environment のオンラインヘルプが韓国語または繁体字中国語の GUI で表示されない

バグ 5009584 - Netscape 7 または Mozilla ブラウザの韓国語バージョンおよび繁体字中国語バージョンでは、「文字コード」設定が間違っているか、選択されていない場合、Storage Automatic Diagnostic Environment オンラインヘルプを表示できません。

回避策 - 次のようにブラウザの設定を変更します。

1. Netscape 7 または Mozilla ブラウザのローカライズバージョンで、「編集」>「設定」>「Navigator」>「言語」に移動します。
2. 「文字コード」を、韓国語では「EUC-KR」、繁体字中国語では「EUC-TW」を選択します。
3. 「表示する言語の順序」フィールドで、韓国語では [ko] を選択し、繁体字中国語では [zh_tw] を選択します。「OK」をクリックして、設定を保存します。

その他の既知の注意事項と問題点

この項では、システムで発見されたその他の既知の注意事項と問題点 (バグ) を説明します。

ESM ソフトウェア：仮想ディスクが誤認識される

バグ 4976822 - Sun StorEdge Enterprise Storage Manager ソフトウェアは、Sun StorEdge 6920 ストレージプールで、個々の仮想ディスクを誤認識します。

回避策 - Sun StorEdge 6920 Configuration Service アプリケーションを使用して、ストレージプールと仮想ディスクに関する正確な情報を取得します。

起動/再起動：DAS ホストの起動時にエラーが発生する

バグ 4969489 - 直接接続ストレージ (DAS) ホストが Sun StorEdge 6920 システムに接続され、デバイスが自動トポロジモードで接続されている場合、最初の起動時にパニックが生じることがあります。

回避策 - 次の値を使用して、/kernel/drv にある jfca.conf ファイルを編集します。

```
Loop FcLoopEnabled = 1;  
FcFabricEnabled = 0;  
Fabric FcLoopEnabled = 0;  
FcFabricEnabled = 1;
```

起動/再起動：起動に数分かかることがある

バグ 4962951 - システムの初期化中に、システムの再初期化が終了するまで数分待つてください。

起動/再起動：Emulex HBA が DSP の再起動後に LUN をスキャンしない

バグ 4910795 - Emulex ホストバスアダプタ (HBA) が構成内にあり、システムがフェールオーバーした場合、HBA は LUN を自動的にスキャンしません。

回避策 - Windows ホストから LUN を再スキャンします。

以前に構成したボリュームにメタデータが残ることがある

バグ 5015342 - 別のホストオペレーティングシステムによって作成されたファイルが以前に含まれていた仮想ディスクにホストから参照できるボリュームを作成した場合、一部のファイルシステムメタデータがそのボリュームに残ります。Data Services Platform (DSP) はボリュームの作成前にボリュームを再初期化しないため、メタデータは fsck または別のホストベースのユーティリティによって認識されます。

回避策 - この問題は、次のいずれかの方法で解決できます。

- ファイルシステムメタデータを含み、ホストから参照できるボリュームを削除する前に、ホストベースのユーティリティを使用して、ボリュームを再初期化し、ほかのオペレーティングシステムで認識される可能性があるすべてのメタデータを削除します。
- ホストから参照できるボリュームの作成後、古いメタデータを認識する可能性があるほかのユーティリティを使用する前に、ホストベースのユーティリティを使用してただちに初期化します。

不明確なメッセージ

次のメッセージが不正確または不明確であると報告されました。

バグ 4986157 - 「ボリュームの概要」 ページまたは「ボリュームの詳細」 ページからマッピングを選択した場合、次のメッセージが表示されます。

```
The initiators were mapped successfully.
```

ここでのメッセージは、ボリュームが正しくマッピングされたことを示す必要があります。

バグ 4994667 - ボリュームを作成し、小さすぎるサイズを指定した場合は、次のメッセージが表示されます。

```
vol: name is too long.
```

バグ 4969219 - コマンド行インタフェース (CLI) を使用してボリュームのスナップショットを作成し、そのボリュームがマッピングされていない場合は、次のメッセージが表示されます。

```
The specified volume was not found
```

ここでのエラーメッセージは、指定されたボリュームがマッピングされていないことを示す必要があります。

バグ 5008902 - 「イニシエータの詳細」 ページから複数のボリュームのマッピングを解除した場合、その処理は正常に完了します。ただし、次のようなメッセージが誤って表示されます。

```
Error None of the volume mappings were unmapped The following errors were encountered:
```

```
4800_pc4-> vol51 - vol51
```

```
4800_pc4-> vol52 - vol52
```

バグ 4985618 - 対処可能な Sun StorEdge Remote Response イベントが発生した場合、イベントメッセージの末尾が切り捨てられることがあります。たとえば、代替マスター管理インタフェースカード (MIC) から PCMIA フラッシュカードを取り外す場合は、次のメッセージが表示されます。

```
slave does not have a
```

正しいイベントメッセージの表示は、次のとおりです。

```
slave does not have a pc card
```

バグ 5026946 - 異なるストレージドメインにあるイニシエータにボリュームをマッピングしようとした場合は、次のメッセージが表示されます。

```
Volume creation succeeded. The following errors were encountered:  
volume-> servername - The initiator and volume are not in the same  
Storage Domain
```

ここでのメッセージは、マッピングに失敗し、ボリュームが作成されなかったことを示す必要があります。イニシエータにボリュームをマッピングする場合は、両者が同じストレージドメインに存在する必要があります。

バグ 5042508 - コマンド行インタフェース (CLI) を使用してイニシエータを作成し、すでに存在する固有の名称 (WWN) を指定した場合、イニシエータ名とストレージドメイン名が変更され、正しくないエラーメッセージが表示されます。

ここでは、コマンドは失敗し、次のエラーメッセージが表示されなければなりません。

```
<wwn>: already exists
```

イニシエータ名とストレージドメイン名は変更できません。

既知のマニュアルの注意事項

次の項目では、マニュアルに関する既知の注意事項について説明します。

- 27 ページの「*sscs CLI* のマニュアルページの訂正」
- 29 ページの「『Sun StorEdge 6920 システムご使用の手引き』の訂正」
- 29 ページの「オンラインヘルプの注意事項と訂正」

sscs CLI のマニュアルページの訂正

ここでは、*sscs* のマニュアルページの訂正について説明します。

ジョブの取り消しに関する CLI のマニュアルページは正しくない

バグ 5041614 - *Modify Jobs* コマンドの *-c* オプションはジョブを取り消すと記載しているこのマニュアルページは誤りです。ジョブを取り消すための正しいオプションは、*-k* (または *--kill*) です。

回避策 - 次のように *-k* オプションを使用します。

```
modify -k job-id jobs
```

CLI のマニュアルページの List Firewall Service は正しくない

バグ 5040994 - List Firewall Service コマンドのマニュアルページでは、次のように、アンダースコアではなく、ダッシュが誤って使用されています。

```
list firewall-service service
```

回避策 - 次のように、ダッシュの代わりにアンダースコアを使用してください。

```
list firewall_service service
```

日本語のマニュアルページを表示するためのシェル環境の更新

ホストソフトウェアの `sscs` のマニュアルページは、英語と日本語で提供されています (日本語のマニュアルページは、`ja` ロケールのみをサポートしています)。`man` コマンドを使用して、日本語でマニュアルページを表示するには、`ja` ロケール環境を使用し、次のいずれかの手順で `MANPATH` 変数を更新する必要があります。

Bourne または Korn シェルを使用して、`MANPATH` 変数を更新するには

1. エディタを使用して、次のように `.profile` ファイルの `MANPATH` 文を更新して、`/opt/se6x20/cli/man` を加えます。次に、`MANPATH` をエクスポートします。

```
MANPATH="$MANPATH:/opt/se6x20/cli/man"
export MANPATH
```

2. ファイルを保存し、エディタを終了します。
3. シェルセッションに `.profile` ファイルを再読み込みします。

```
# . /.profile
```

C シェルを使用して、`MANPATH` 文を更新するには

1. エディタを使用して、`.login` ファイルで、次のように `/opt/se6x20/cli/man` を `MANPATH` 文に追加します。

```
setenv MANPATH "$MANPATH:/opt/se6x20/cli/man"
```

2. ファイルを保存し、エディタを終了します。
3. シェルセッションに `.profile` ファイルを再読み込みします。

```
# source .login
```

『Sun StorEdge 6920 システムご使用の手引き』の訂正

『Sun StorEdge 6920 システムご使用の手引き』の「追加のストレージ接続用のポートの選択」の項で、35 ページの注は、列 8 のポートをストレージ接続に使用できないと誤って記載しています。ストレージに使用できないのは、列 1 のポートです。

オンラインヘルプの注意事項と訂正

オンラインヘルプには、次の誤りがあります。

各言語対応版でオンラインヘルプが英語で表示される

各言語対応版でオンラインヘルプが英語で表示されます。オンラインヘルプは、<http://sunsolve.sun.com/> から入手できる次のパッチリリースで、サポートされるすべての言語に翻訳されています。

電源管理

リモート電源管理とも呼ばれる電源管理を使用すると、リモートコンソールを使用して、システムの電源をオフおよびオンにすることができます。システムのキースイッチがシステムコンポーネントとアレイへの電源を制御するように、電源管理機能はデフォルトで無効になっています。ライトアウト管理機能を有効にした場合、システムコンポーネントへの電源は、電源リレーのシーケンサによって制御されます。

電源管理機能の有効化および無効化については、次の手順に従ってください。

1. 「Sun Web Console」ページに進み、「Storage Automated Diagnostic Environment」をクリックします。
2. 「サービス」>「サービスアドバイザー」>「X オプション」をクリックします。

システムの電源のオン/オフの切り替え

デフォルトでは、システムの電源をオフにすると、完全停止が行われます。電源リレーが有効になっている場合は、部分停止を行うオプションがあります。

- 部分停止では、ストレージは停止しますが、システムは実行し続け、ユーザーはリモートコンソールからシステムを再起動できます。DSP (Data Services Platform) は電源シーケンサのスイッチコンセントに接続されるため、システムは DSP への電源を復元できます。次に、管理インタフェースカード (MIC) が、DSP のほかのカードの電源をオンにします。
- 完全停止では、ストレージが停止し、システム自体も徐々に停止します。システムの再起動は手動で行う必要があります。

システムの電源をオフにするには、admin ユーザーとしてログインする必要があります。システムの電源をオフにする前に、データホストとシステム間のすべての入出力を停止する必要があります。



注意 – 電源をオフにする前に入出力を停止しなかった場合は、データが失われる可能性があります。

部分停止の実行

部分停止を実行する場合、システムは次の状態になります。

- ベースキャビネットのストレージサービスプロセッサの電源はオンのままです。
- ストレージサービスプロセッサのアクセサリトレイの電源はオンのままです。
- すべてのストレージアレイの電源はオフになります。
- DSP (Data Services Platform) の電源はオフになります。
- 電源シーケンサの「Power Available」LED のみが点灯します。

システムの部分停止を実行するには

1. admin としてログインします。
2. 「Sun Web Console」ページで、「Sun StorEdge 6920 Configuration Service」をクリックします。
3. 「管理」>「一般設定」をクリックします。
4. 「システムの部分停止」ボタンをクリックします。
5. 「了解」をクリックして、部分シャットダウンの実行を確認します。
「一般設定」ページに次のメッセージが表示されます。

システムを部分停止しました

システムを復元するには、次の操作を行います。

1. admin としてログインします。
2. 「Sun Web Console」ページで、「Sun StorEdge 6920 Configuration Service」をクリックします。
3. 「管理」>「一般設定」をクリックします。
4. 「システムの電源投入」ボタンをクリックします。

ベースキャビネットとすべての拡張キャビネットの電源シーケンサが起動し、コンポーネントへの電源を復元します。

完全停止の実行

システムの電源をすべてオフにするには

1. admin としてログインします。
2. 「Sun Web Console」 ページで、「Sun StorEdge 6920 Configuration Service」をクリックします。
3. 「管理」 > 「一般設定」 をクリックします。
4. 「システムの停止」 をクリックします。
5. 「OK」 をクリックして、完全停止の実行を確認します。

システムは、次の状態になります。

- ベースキャビネットのストレージサービスプロセッサの電源はオフになり、電源管理の制御を受けます。
- ストレージサービスプロセッサのアクセサリトレイの電源はオンのままです。
- DSP (Data Services Platform) の電源はオンのままです。
- すべてのストレージトレイの電源はオンのままです。
- 電源および冷却ユニット (PCU) のファンはオンです。
- PCU の「Remove」 LED が点灯します。
- 電源シーケンサのすべての電源 LED は点灯します。

停止を完了するには、システムで次の手動の操作を行う必要があります。

1. ベースキャビネットとすべての拡張キャビネットからフロントトリムパネルを取り外します。
2. 各キャビネットの底面の前後で、AC 電源シーケンサの回路ブレーカを上げてオフにします。

システムは、次の状態になります。

- ストレージサービスプロセッサのアクセサリトレイの電源はオフになります。
- DSP (Data Services Platform) の電源はオフになります。
- すべてのストレージトレイの電源はオフになります。
- PCU ファンはオフになります。

電源シーケンサを点検したり、システムを移動する場合は、電源ケーブルを取り外します。それ以外の場合は、電源ケーブルを接続し、静電放電のために適切な接地を確保します。

完全停止後のシステムの復元

完全停止手順で電源をオフにした後でシステムを復元する場合は、システムの設置場所で、次の操作を行う必要があります。

1. ベースキャビネットとすべての拡張キャビネットのフロントドアとバックドアを開きます。
2. 各キャビネットからフロントトリムパネルを取り外します。
3. AC 電源ケーブルが正しい AC コンセントに接続されていることを確認します。
4. 各キャビネットの底面の前後で、AC 電源シーケンサの回路ブレーカを下げ、オンにします。

フロントパネルとバックパネルの両方で電源状態 LED が次の順序で点灯し、フロント電源シーケンサのステータスを示します。

- AC 主電源の LED (これは電源がキャビネットに供給されている場合に点灯します)。
 - シーケンサのステージ 1
 - シーケンサのステージ 2
5. システムの背面で、ストレージサービスプロセッサの電源スイッチを見つけ、電源スイッチを押してオンにします。
 6. すべてのコンポーネントで緑色の LED のみが点灯していることを確認します。
 7. フロントトリムパネルを交換し、すべてのドアを閉じます。

これでシステムが動作し、リモート電源の投入手順がサポートされます。

サービスに関する問い合わせ先

Sun StorEdge 6920 システムまたはその他の Sun 製品について追加の情報が必要な場合は、次の Web ページから Sun のカスタマーサービスに問い合わせてください。

<http://www.sun.com/service/contacting>